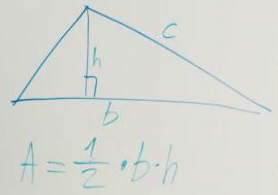




CENTER ON

PBIS

Positive Behavioral
Interventions & Supports

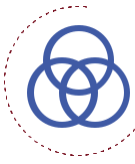


学級の教育マトリクス を作成する

KAREN ROBBIE, MARIA SANTIAGO-ROSARIO, KIMBERLY YANEK, LAURA KERN,
BRIAN MEYER, KELSEY MORRIS, & BRANDI SIMONSEN

2022.8

2022.11 (日本語版)



学級の教育マトリクスを作成する

制作者

Karen Robbie
Maria Santiago-Rosario
Kimberly Yanek
Laura Kern

Brian Meyer
Kelsey Morris
Brandi Simonsen

目的

この要約版は、学級のコミュニティ（例えば、教師、児童生徒、家族）の共通の価値を反映するポジティブな「学級で期待する姿」や規範を確立することにより、ポジティブな指導と学習の環境を促進させる方法について焦点を当てている。特に、次のことを明確に特定し定義し、指導するために、学級の教育マトリクスをどのように作成し利用すればいいかという指針を提供する。

- (a) 予測可能な学級のルーティン
- (b) ポジティブに表現された「学級で期待する姿」および
- (c) 重要な社会的、情緒的、行動的(SEB)スキル

追加の手引きと資料は、「Supporting and Responding to Students Social, Emotional, and Behavioral Needs」を参照のこと。



児童生徒たちは学校がある日のほとんどを学級で過ごし、仲間や教師から学び、相互に交流している。共通のSEB目標を設定することは、学習のために前向きで、予測可能でかつ安全な環境を促進する。特に、学級で期待する姿を教え、促し、フィードバックを与えることは、児童生徒の成果の改善に関連している(例、Alter & Haydon, 2018; Cookら, 2018; Faulら, 2012; Simonsenら, 2008)。教育マトリクスは学級で共通となる期待するSEBスキルを作成するのに役立つツールとなるだろう。教育マトリクスは期待する姿(行の見出し)、場面やルーティン(列の見出し)、それぞれのルーティンにおいて期待される行動として示される重要なSEBスキルの具体例を示す(表の中の行と列が交わったセル)。この練習用要約版では、学級の教育マトリクスを作成し利用するための手引きをステップ・バイ・ステップで提供する。

学級の教育マトリクスを 作成するための手順

ステップ1: 共通の「学級で期待する姿」を決める

学級の教育マトリクスは学校全体のPBISで設定された「学校で期待する姿」を学級の環境に拡大したもので、一日を通して、学級からその他の状況へと移り変わる中で、すべての児童生徒に一貫性のある学習環境となるよう支援する。既に実施しているSEBの指導とこの教育マトリクスを、用語の一貫性を確認したり、社会的・情緒的能力を学級の教育マトリクスに組み込んだりすることにより、連携もしくは統合させる([Teaching Social-Emotional Competencies within a PBIS Framework](#)を参照)。²



共通の「学校で期待する姿」(例、私たちは自分を大切にします、私たちは他者を大切にします、私たちは物を大切にします)がすでにある場合は、一貫性を保つために「学級で期待する姿」を「学校で期待する姿」と結びつける。図1と2は、それぞれ、学校のマトリクスと学級のマトリクスの例である。学級のマトリクスには、学校のマトリクスと同じ「期待する姿」がある(いちばん左の列)。学校のマトリクスでは、いちばん上の行に学校全体の共通の環境が示されている。一方で、学級のマトリクスでは、学級のルーティンという文脈における同じ「期待する姿」を示している。

共通の学校全体の「期待する姿」がない場合は、「学級で期待する姿」を設定する段階で児童生徒たちに参画させる([PBIS Cultural Responsiveness Field Guide: Resources for Trainers and Coaches](#),³ Appendix D: School-wide Expectations and Matrix Examination Activityを参照)。

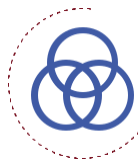


図1.学校のSEB教育マトリクスの例

学校で 期待される姿	場面／ルーティン					
	すべての場所	廊下	校庭	食堂	図書館 パソコンルーム	バス
私たちは 自分を大切に します	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組む ・ 最大の努力をする ・ 必要な時は、支援を 求める 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩く ・ 目的の場所へまっす ぐ行く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画的に過ごす ・ 何か楽しいことをす る ・ 安全に遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のものだけを食 べる ・ 健康的な食べ物を 選ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の助けになる資 料を利用する ・ 自分の勉強に集中 する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のバス停に注 意する ・ 持ち物を注意してみ ておく ・ 足を床につけ、体を 前に向けて座る
私たちは 他者を大切に します	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親切にする ・ 手や足、物は自分の そばに置く ・ 誰かに頼まれたら手 伝う ・ 皆と共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 静かな声で話す ・ 右側を歩く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の人を誘う ・ 道具と一緒に使う ・ 順番交代をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話す番が来るまで待 つ ・ 皆が会話に参加で きるようにする ・ 新しい人と交流する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小声で話す ・ 本を返す ・ 他の人が集中でき るように気づかう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 静かな声で話す ・ 自分の席に座る ・ ドライバーに親切に する
私たちは 物を大切に します	<ul style="list-style-type: none"> ・ リサイクルする ・ 後片付けをする ・ 使った場所を使う前 よりもきれいな状態 にして戻す 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみを拾う ・ 空間を今ある状態に 保つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道具を適切に使う ・ ごみをごみ箱に入れ る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の持ち物を管 理する ・ 食事スペースをきれ いにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いすを入れる ・ 本を丁寧に扱う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持ち物を通路ではな いところに置く ・ バスを降りる時、持 ち物とごみをすべて 持ち帰る



図2. 学級の SEB 教育マトリクス の例

学級で 期待される姿	場面／ルーティン					
	すべてのルーティン	教室の出入り	少人数の学習	全体指導	個別での 学習時間	機嫌が悪い時
私たちは 自分を大切に します	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組む ・ 最大の努力をする ・ 必要な時は、支援を 求める 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩く ・ 目的の場所へまっす ぐ行く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加する ・ 必要な教材を机の 上に出す 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に取り組む ・ ノートをとる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画的に取り組む ・ 指示を読み、聞く ・ 自分の作業に集中 する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ イライラしたり、混乱 したり、わからないと 感じたときにはそう 伝える ・ 3回深呼吸をする ・ 支援を求める
私たちは 他者を大切に します	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手や足、物は自分の そばに置く ・ 誰かに頼まれたら手 伝う ・ 皆と共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 静かな声で話す ・ 右側を歩く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他人を誘う ・ 道具を一緒に使う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞きたいことや伝え たいことがある場合 は手を挙げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小声で話す ・ 自分の作業にだけ 集中する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 静かに話す ・ 他人の考え方に ついて耳を傾ける ・ 必要な時は休憩をと る
私たちは 物を大切に します	<ul style="list-style-type: none"> ・ リサイクルする ・ 後片付けをする ・ 使った場所を使う前 よりもきれいな状態 にして戻す 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみを拾う ・ 空間を今ある状態に 保つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループの教材を机 の上に出しておく ・ 教材を丁寧に扱う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の席に安全に 座っている ・ 必要な教材をすぐに 使えるようにしておく 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級の道具を皆と 一緒に使う ・ 道具を見つけたら、 元の場所に戻してお く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材を置き、その場 を離れる ・ 支援を求める

ステップ2. 学級のルーティンまたは環境を決める

複数の活動間のスムーズな関連づけと移行を促すためにルーティンを作成し教えることで、教育の時間を最大化する。ルーティンやわかりやすい一連の手順（例、一日の始まりまたは終わり、入室時、個別の作業時、支援を求める時）があることで指導を充実させることができ、それによって学校での1日にどれだけの重要な時間ができるかを考える。さらに、「機嫌が悪いとき」や「助けてほしいとき」といった、児童生徒の社会的・情緒的ニーズを支援するルーティンを考える。（ルーティンの例は、図2の表の一番上の行を参照）

ステップ3: 文化的、また文脈に関連した SEB スキルの例を選択する

学級コミュニティの人たち（例、児童生徒、教師、家族）と教室マトリクスを共同作成する。児童生徒と学級コミュニティがこれまでに独自に共有し培われてきたものを反映する言葉を使用し、SEB スキルの例を選択する。

- 児童生徒たちの声を組み入れる。すべての児童生徒が「期待する姿」とルーティン、SEB スキルの具体例の草案作りに積極的に参加し、意見を聞いてもらい、一員となることを確認する。「学級で期待する姿」と具体例を児童生徒と共同作成し、彼らの声と選択が反映されるようにする。決められた学級ルーティンの中で、「学級で期待する姿」に従うことが、具体的にはどのようなふるまいになるか、児童生徒に例を挙げてもらう。議論を通して積極的にそのふるまいのパターンを聞き取り、フィードバックをする。
- 複数のルーティンにわたってどの行動を指導し練習することが重要かを決める。関連する SEB スキルを、明確に述べられた観察可能で測定可能な指標や例に要約する（例、話す人に耳を傾ける、支援が必要な時

は手を挙げる）。その際、児童生徒の発達段階や、場面に特有の特徴、文化的妥当性を考慮する。児童生徒に、学級で合意したことを日常的に互いに実践するよう促し、学習コミュニティに積極的に参加していることを承認する（例、「今日は学級全体の授業参加がとても高かったです。おかげでしっかりと学ぶことができました。よくできました!」）。

- 家族、地域社会、児童生徒の経験と価値を組み込む。学級マトリクスを教師と児童生徒で共同作成した後、家族や関連する地域の関係者（例、関連するサービス事業者、放課後プログラムのコーディネーター、医療関係者）を招待してフィードバックをもらう。そのフィードバックやそれまでの経験で期待されてきた SEB スキルを組み入れて、学級で期待する姿が児童生徒の独自の学習履歴に妥当で、それを肯定し、その積み上げや橋渡しとなるようにする（VABB; Hollie ら、2011）。
- 学校、家庭および地域環境でそれぞれに区別された期待する姿を設定する。個人のマトリクス（[PBIS Cultural Responsiveness Field Guide: Resources for Trainers and Coaches](#), 4 Appendix G: Personal Matrix を参照）を利用し、児童生徒たちに、学級で期待する姿が家庭ではどうか、友だちと一緒にいるときはどうか、を考えさせる。このステップを完了することにより、教師は学校と家庭の「期待する姿」のどこに不一致があるかを特定し、さらなる指導がどこで必要か認識し、学級マトリクスを家族や地域の文化的価値観に対応する形で変更する必要があるかを判断する情報を集めることができる。個人のマトリクス活動は、生徒指導における人種およびまたは民族的公平性を高める点で効果が認められている（Gion ら、2021; Muldrew & Miller, 2021）。

ステップ4: 直接指導する

それぞれのルーティンの中で「期待する姿」を指導する授業を組み立てる。授業ではモデルを示し、指導を伴う練習に具体的なフィードバックを与え、初めて学んだ時にも、その後の経過観察としても、学んだことが使えるまで理解できているかどうかを確認する機会を持つ。授業を作成し、指導し、授業に参加する上で積極的に児童生徒を参画させる方法を考える。学級ルーティンの中で期待する姿を指導するための教育マトリクスと授業計画テンプレートの例は [Creating Effective Classroom Environments Plan Template](#)⁵ を参照のこと。

ステップ5: 期待する姿を掲示し、促し、共有する

直接指導することに加えて、期待する姿をどのように伝え、促すかを考える。

- **期待する姿を掲示する。**教室の主要な位置に掲示する期待する姿の視覚的な掲示物を児童生徒に作成させる。
- **視覚的な手がかりを作成する。**児童生徒が主な SEB スキルに取り組むよう支援するために、視覚的な手がかりやリマインダー（例、主な SEB スキルに取り組む児童生徒たちの絵）を作成し、それぞれのルーティンの場所や物の近くに掲示する（例、移動するときのドアのそばに視覚的な手がかりを掲示する）。
- **期待する姿を共有する。**マトリクスを学級と関りのある他の人（例、専門家、助手、代理教員、ボランティア、家族）と共有することにより期待する姿と主な SEB スキルを伝え、学級コミュニティ全体の一貫性を高める。

学級の教育マトリクスを作成するための追加のヒント

頻繁に、意図的に促す

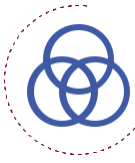
学級の教育マトリクスにあるそれぞれの期待する姿、ルーティン、重要な SEB を直接指導した後、児童生徒たちがそれを自発的に実行するのを待たずに、定期的に期待する姿を児童生徒に促し、思い出させる。例えば、授業が始まる前に [ドアのところで元気な挨拶をするとき](#)⁶、教師は「責任を持つという目標を思い出して、終わった宿題を入れるかごに、宿題を入れましょう」と言うこともできる。

また、行動のエラーが起こりやすいルーティンの間にプロンプトを与える。例えば、授業の終わりのまとめの時に、教師が「教室を出る前に机の周りのすべての持ち物を確認しましょう」と言ってもよい。

具体的なフィードバックを与える

児童生徒たちが SEB スキルを実践するとき、期待通りにスキルを実行できたときとエラーをしたときを区別できるよう、具体的なフィードバックを与える。具体的なフィードバックでは、スキル/行動を挙げて、誉め言葉または簡単な修正のいずれかを組み合わせる。

- **具体的な誉め言葉の例:**「話す前に手を挙げましたね。そのおかげでみんな、発表する機会を持つことができました。よくできました!」
- **具体的な修正の例:**「次からは、考えを共有したいときには手を挙げてください。そうすると皆が発表する機会を持つことができます。」



具体的なフィードバックを与えるとき、修正よりも称賛の方が高い割合になるよう努力すること。理想的には、児童生徒は1回の修正に対して少なくとも5回の称賛を受けべきである(Cookら、2017)。情緒行動障害やその他の障害のある、またはそのリスクのある児童生徒には、それよりも高い修正に対する称賛の割合が有効な場合がある(例、修正1回につき、9回以上の称賛の言葉;Caldarellaら、2019)。

再度指導する

年間で周期的に SEB スキルを指導し、再度指導することを計画する。学校の休暇の後や、新学期の始まりの時など、SEB のエラーが増えるパターンもしくは傾向のある時に追加の授業を行うことは、児童生徒に学んだことを思い出させ、実践を継続する機会を提供することになる。例えば、教師が、児童生徒たちが教室を出る時に教科書や筆記用具、その他の物を頻繁に置き忘れることに気づいたとする。次の授業では、教師は授業を5分早く切り上げ、どのように「物を大事にして」教室を出るかを再度指導する。

プロンプト、具体的なフィードバック、再指導、またその他の効果的な学級の実践に関する詳細の手引きは、次を参照：[Supporting and Responding to Students' Social, Emotional, and Behavioral Needs: Evidence-Based Practices for Educators](#)⁷ and [Multi-Tiered System of Supports \(MTSS\) in the Classroom](#).⁸

家族と協力する

学級マトリクスは教師と家族が協力し、家族の価値観にポジティブで公平で、安全で効果的な学習環境のために必要となる、期待する SEB スキルを沿わせる機会を提供する。

- 次のことを通して、家庭、学校および地域の橋渡しとなるよう学級の教育マトリクスを利用する。(a) 学級の教育マトリクスの作成に協力するよう家族に依頼する、(b) SEB スキルを子どもの学級に導入する方法に関する情報を提供する、(c) SEB スキルが学習にどのような役割を果たすかについて双方向のコミュニケーションを持つ。
- いつどのように SEB スキルが直接学級で指導されたかを家族に説明して、児童生徒の SEB スキルを向上させることに家族を関与させる。それから、家族に家庭でどのように SEB スキルを促せばいいかの例を提示する。
- SEB スキルをさらに支援し、期待する姿を家庭の価値観合わせるために、家庭で教育マトリクスを適用し利用することを家族に奨励する。家庭でポジティブな行動を支えるために次の資料を共有することを検討する：(a) [Supporting Families with PBIS at Home in English](#)⁹ or [Spanish](#)¹⁰、(b) [Family Plan for Positive Behavior at Home](#).¹¹

まとめ

学級の教育マトリクスを作成することで、一貫性があり、予測可能で、児童生徒がポジティブで効果的かつ公平な学習環境を経験するために必要な明確な指導を実現できる。マトリクスを児童生徒と共同設計し、家族と協力することで、この重要な指導ツールを文化的にも対応したものにする事ができるだろう。

References

- Alter, P., & Haydon, T. (2017). Characteristics of effective classroom rules: A review of the literature. *Teacher Education and Special Education, 40*, 114–127. doi:10.1177/0888406417700962
- Caldarella, P., Larsen, R. A., Williams, L., Wills, H. P., & Wehby, J. H. (2019). Teacher praise-to-reprimand ratios: Behavioral response of students at risk for EBD compared with typically developing peers. *Education and Treatment of Children, 42*(4), 447-468.
- Cook, C. R., Duong, M. T., McIntosh, K., Fiat, A. E., Larson, M. F., Pullmann, M., & McGinnis, J. (2018). Addressing discipline disparities for Black male students: Linking malleable root causes to feasible and effective practices. *School Psychology Review, 47*(2), 135-152. <https://doi.org/10.1177/1098300717753831>
- Cook, C. R., Grady, E. A., Long, A. C., Renshaw, T., Coddig, R. S., Fiat, A., & Larson, M. (2017). Evaluating the impact of increasing general education teachers' ratio of positive-to-negative interactions on students' classroom behavior. *Journal of Positive Behavior Interventions, 19*(2), 67-77.
- Faul, A., Stepensky, K., & Simonsen, B. (2012). The effects of prompting appropriate behavior on the off-task behavior of two middle-school students. *Journal of Positive Behavior Interventions, 14*, 47–55. doi:10.1177/1098300711410702
- Gion, C., McIntosh, K., & Falcon, S. (2022). Effects of a multifaceted classroom intervention on racial disproportionality. *School Psychology Review, 51*(1), 67-83. <https://doi.org/10.1080/2372966X.2020.1788906>
- Hollie, S. (2011). *Culturally and linguistically responsive teaching and learning: Classroom practices for student success*. Huntington Beach, CA: Shell Publications.
- Muldrew, A. C., & Miller, F. G. (2021). Examining the effects of the personal matrix activity with diverse students. *Psychology in the Schools, 58*(3), 515-533. <https://doi.org/10.1002/pits.22461>
- Simonsen, B., Fairbanks, S., Briesch, A., Myers, D., & Sugai, G. (2008). Evidence based practices in classroom management: Considerations for research to practice. *Education and Treatment of Children, 31*, 351–380. doi: 10.1353/etc.0.0007

Embedded Hyperlinks

1. <https://www.pbis.org/resource/supporting-and-responding-to-behavior-evidence-based-classroom-strategies-for-teachers>
2. <https://www.pbis.org/resource/teaching-social-emotional-competencies-within-a-pbis-framework>
3. <https://www.pbis.org/resource/pbis-cultural-responsiveness-field-guide-resources-for-trainers-and-coaches>
4. <https://www.pbis.org/resource/pbis-cultural-responsiveness-field-guide-resources-for-trainers-and-coaches>
5. <https://www.pbis.org/resource/creating-effective-classroom-environments-plan-template>
6. <https://www.pbis.org/resource/positive-greetings-at-the-door>
7. <https://www.pbis.org/resource/supporting-and-responding-to-behavior-evidence-based-classroom-strategies-for-teachers>
8. <https://www.pbis.org/resource/multi-tiered-system-of-supports-mtss-in-the-classroom>
9. <https://www.pbis.org/resource/supporting-families-with-pbis-at-home>
10. <https://www.pbis.org/resource/supporting-families-with-pbis-at-home-spanish-translation>
11. <https://www.pbis.org/resource/family-plan-for-positive-behavior-at-home>

This document was supported from funds provided by the Center on Positive Behavioral Interventions and Supports cooperative grant supported by the Office of Special Education Programs (OSEP) and Office of Elementary and Secondary Education (OESE) of the U.S. Department of Education (H326S180001). Dr. Renee Bradley serves as the project officer. The views expressed herein do not necessarily represent the positions or policies of the U.S. Department of Education. No official endorsement by the U.S. Department of Education of any product, commodity, or enterprise mentioned in this document is intended or should be inferred.

Suggested Citation for this Publication

Robbie, K., Santiago-Rosario, M., Yanek, K., Kern, L., Meyer, B., Morris, K., & Simonsen, B. (August, 2022). *Creating a Classroom Teaching Matrix*. Center on PBIS, University of Oregon. www.pbis.org